

令和5年5月1日

竹早教員保育士養成所
所長 齊藤 光一 殿

竹早教員保育士養成所
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会実施報告

令和4年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

I. 学校関係者評価委員会出席者

芦野 裕一 (学校法人彰栄学園 常務理事)
佐々木 妙子 (一般社団法人慈愛会慈愛会保育園 園長)
湯澤 都与子 (竹早教員保育士養成所同窓会 理事)

【書面による回答】

佐藤 良文 (学校法人明照学園明照幼稚園 園長)

II. 学校関係者評価委員会の開催状況

令和5年2月28日 火曜日 午後3時から
会場：竹早教員保育士養成所 第3校舎第7教室

III. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

1. 学校の理念、教育目標

明治21(1888)年創立以来、「誠実で有為な幼稚園教員、保育士を養成する」ことを、理念・目的にかかげて教育実践に取り組んできた。

「誠実」とは私欲を離れて正直にまじめに物事に取り組むことであり、人間にとって最も大切な基本的な資質の一つである。「有為」とは才能があり人の役に立つということであり、幼稚園教員、保育士にとって欠かすことのできない資質・能力であることを確認しました。

2. 重点目標と達成計画

「誠実で有為な幼稚園教員、保育士を養成する」ことをねらいとしており、次に示す能力や知識・技能を身に付けるために教職員が一体となって取り組んでいることを確認しました。

令和4年度の重点目標は、能力や知識・技能を身に付けるために以下のようにしました。

- (1) コロナ禍においても保育者に求められる専門性習得の機会を確保する。
- (2) 実習と実習指導の充実を図る。
- (3) 地域連携による「保育補助活動」を復活し、子どもとの関わりを通して実践力を高める。
- (4) クラブ活動を再開し、集団の一員としての自覚を高め、協調・協力を通して保育者としての資質や技能の向上をめざす。
- (5) 行事を再開し、各学級・学年・学校の連帯感や士気を高め、豊かな人間性を養う。

さらに学生募集については、学校説明会やガイダンスに加え、高校訪問により本校の魅力を伝えていく。

令和4年度の達成計画は、幼稚園教諭、保育士の資質を養成するために以下のようにしました。

- (1) コロナ禍においても、対面授業とオンライン授業を組み合わせ、授業を充実させる。
- (2) 学生の授業への出席を重視して対処する。
- (3) 実習の事前事後指導の内容検討を通して、実習での学びの充実を図る。
これまで担任が担当していた実習指導であるが、専門の担当者を置き、長期の見通しをもって、内容・方法を見直し、検討していく。
- (4) 地域連携による「保育補助活動」を復活し、内容については学生が達成感を持てるよう検討する。計画としては、表現指導法と保育・教職実践演習とがタイアップし、ミニプログラムを企画し、近隣の児童館、幼稚園、保育所で発表する形にする。子どもとの関わりを通して実践力を高めることを期待する。
- (5) クラブ活動を再開し、集団の一員としての自覚を高め、協調・協力を通して保育者としての資質や技能の向上をめざす。密を避けるために学年ごとの活動とし、学生の実態を踏まえ、学生が自主的に活動できることをめざす。

- (6) 豊かな人間性や保育者に求められる人間力を養うために行事を再開できるようにしたい。
- (7) 学生の多様化により、学生一人一人の課題を把握し、受け止め、丁寧な対応が求められる。担任、教務部長を中心に全教員であたっていく。

3. 評価項目別取組状況の質疑意見は以下のとおり

(1) 基準1 教育理念・目的・育成人材像

本校のディプロマポリシーと授業内容とのつながり、クラブ活動や行事から得られる学びをこれからも引き続き大切にしていくことを確認しました。

(2) 基準2 学校運営

ここ数年、定員充足率が下がっています。高校ガイダンス、ホームページの充実、学校案内パンフレット、学校紹介の映像、学校説明会の改善、高校訪問など今後も引き続き、見直ししながら進めていきたい。また、人事については収入と支出のバランスを考慮しながら、養成校としての基準に則り、望ましい人材を確保していきたいと確認しました。

(3) 基準3 教育活動

教育課程編成を定期的に見直し、カリキュラムマップやカリキュラムツリーの作成を考えている。またキャリア教育の実施にあたり、引き続き内容と方法を検討していきたい。さらに教員の資質向上のための研修体制を充実させていくことを確認しました。

(4) 基準4 学修成果

教育課程に加え、特別研修や就職ガイダンスなどを効果的に組み入れている。また、教育実習・保育実習の他にも近隣幼稚園・保育所・児童館との連携による実践的授業、保育者として必要な力量が総合的に学べるよう取り組み、成果をあげています。

公立保育園の就職内定者が増加したことはいいことです。学校では保育士のベースとなる部分をしっかりと育ててほしいとご意見がありました。

(5) 基準5 学生支援

就職支援は、特別研修で職業に対しての意識付けや就職に向けての具体的な指導を実施しています。

学生相談は、クラス担任制を導入していることで一人ひとりに合わせた個別相談ができる環境になっています。

経済的な支援は、学校独自の奨学金がないことから、日本学生支援機構の給付奨学金、貸与奨学金、各自治体の保育士修学資金の紹介、学費の延納・分納にも対応してできるだけ学費納入で困らないよう支援しています。

クラブ活動では保育に役立つ内容のクラブがあり、経験の一助となるよう工夫しています。人の意見を取り入れたり、社会性や人間性も高められるところがいいところだというご意見がありました。

(6) 基準6 教育環境

校舎の設備に対する修繕が多い年度となりました。予算の関係上、優先順位が高い順に取替更新、修繕をしています。

本年度、2学年校外学習で葛西臨海水族園へ行きました。令和5年度から行事として設置します。

防災面では、引き続き大震災に備えていくことを確認しました。

(7) 基準7 学生の募集と受け入れ

学生募集は東京都専修学校各種学校協会の基準に基づき、適切に行っています。本年度の受験者は前年比37%増加しました。

募集活動は以下の①から③の流れが基本となっています。

- ①高校内ガイダンス、高校訪問、インターネットを活用した広報活動
- ②学校説明会に参加
- ③本校を受験

令和5年度は学校説明会の内容をより良いものにしていくと確認しました。

(8) 基準8 財務

私立学校法、寄附行為、学校会計基準などに基づき、適切に運営しています。

本年度は過去最低の入学者であったことからわかるように年々財務環境は厳しくなっています。2年制の学校のため、総学生数はもう1年、過去最低を推移します。再来年度には安定経営になるよう募集活動、経費の見直しなどを実施していくことを確認しました。

また、専修学校には、1条校の経常費補助金のような大きい金額の補助金がないという説明がありました。

(9) 基準9 法令等の遵守

今後も毎年年次報告、業績報告等、各種報告調査に求められている法令、規準等を遵守していくことを確認しました。

(10) 基準10 社会貢献・地域貢献

新型コロナウイルスの制限が緩和され始めましたので、コロナ前の状態に戻せるよう取り組んでいくことを確認しました。

4. 令和4年度重点目標達成についての自己評価

新型コロナウイルスの影響を受けたが、感染予防に気を配ることで少しずつ従来の学習形態や行事等ができるようになりました。

令和4年度の重点目標達成の自己評価は、以下のようになりました。

- (1) 授業では、対面授業を中心に一部オンラインを活用し、学びの機会をしっかりと確保することができた。
- (2) 実習にむけての事前事後指導である「実習指導」の5つの授業について内容の見直し・充実を図り、学生の実践力向上に努めた。
- (3) 「保育・教職実践演習」では「保育補助活動」の新しい試みとして地域の児童館・幼稚園・保育所に学生が出向いてミニプログラムの企画を行った。学生にとって印象に残る学びとなった。
- (4) 昨年まで中止となっていたクラブ活動を再スタートした。今年度は密を避けるため学年ごとの活動となったが、クラブ活動のねらいを理解し充実した活動の一步が踏み出せたと思われる。
- (5) 今年度は宿泊研修、新入生歓迎会、保育研究発表会等の行事を実施することができ、成果をあげることができた。

学生募集については、昨年より多くの応募者があったが、定員までにはさらに対策が必要である。